

南多摩病院AMAT隊が 徳島での災害訓練に参加しました。

和歌山県南方南海トラフ付近にてマグニチュード9.0の地震が発生、四国各県内のいたる所で震度7を観測し徳島県でも甚大な被害が発生したとの想定により2月4日、5日両日、徳島県美馬市の医療法人社団芳越会ホウエツ病院を中心とした救急災害訓練が行われました。

地域自治体をはじめとした多くの行政機関の他、医療チームでは日本DMATとともに全日本病院協会協会の医療機関から7隊のAMATチームが参加しました。

南多摩病院のチームの編成は医師1名、看護師1名、ロジスティック（調整員）として救急救命士1名の計3名でした。4日は事前説明会を行い、5日9時ちょうどに発災、超急性期、急性期とフェーズ切り替えを行う想定です。ホウエツ病院に設置された災害活動拠点本部に続々と参集してくる派遣隊に対して、拠点本部長から救助活動現場への出動命令、転院搬送や巡回診療などの任務付与が行われました。南多摩AMAT隊に与えられたミッションは拠点本部運営支援との命令でした。



続々と入ってくる様々な情報や連絡を整理し、その伝達と周知、更に情報不足を来たしている医療機関への安否確認、またEMIS（広域災害救急医療情報システム）の代行入力、クロノロ（時系列記録）など任務量は豊富でした。

災害に対する支援として会員相互の共助、病院直接支援を基本とする AMAT 隊ですが、今回の訓練では、災害現場へ DMAT 隊と共に出場し、地元消防隊との連携活動を行いました。また DMAT と同じ場所に拠点本部を立ち上げ、相互の任務を補完しています。また今回、天候により実現しませんでした。AMAT 隊が大阪空港から自衛隊ヘリで現場投入することになっていたなど、国の機関との連携など新たな取り組みが示されています。

今回、参加したことで、様々な任務の取り組みや他医療機関が実施している災害対策を確認したことで、南多摩病院として果たすべき役割を再認識するなど、参加メンバー全員が手ごたえを感じる訓練参加になりました。

南多摩病院では引き続き、医師会、行政、消防、災害拠点病院等と緊密に連携し、八王子地域における災害 対応力の強化に努めてまいります。

